

こうのとり通信

～兵庫県助産師会だより～

一般社団法人 兵庫県助産師会

第21号(33) 2024年3月31日発行
(発行部数500部)

発行責任者 國廣 晴美
編集責任者 杉原 真理



〒650-0011
神戸市中央区下山手通5丁目8-14
山手ダイヤハイツ305号

TEL: 078-362-1310 (月～木)10:00～16:00

FAX: 078-362-2737 (24時間)

Email: jimuhyogo-josanshikai.com

HP: <http://hyogo-josanshikai.com/>

この度の令和6年能登半島地震により、被災された会員の皆様に心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復興を祈念いたしますとともに、ご自愛くださいますようお願い申し上げます。

ごあいさつ



今、助産師に求められていること

一般社団法人兵庫県助産師会会長 國廣 晴美

2024年6月の総会で、3期6年の理事の任期を終えます。

2020年会長就任とともにコロナ禍となり、当会の活動や事業は、変更や中止を余儀なくされる状況となる中、会員の皆さまには多大なご協力をいただき心より感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルスが第5類感染症となり間もなく1年になりますが、コロナ前からの母子と家族を取り巻く問題は深刻化、顕在化しています。

コロナ禍を前後して、母子保健法の改正や子ども家庭庁の発足など、地域における切れ目のない妊娠・出産・子育て支援等の新しい取り組みが次々と始まっています。また、第8次医療計画(2024～2029年)では、周産期医療の集約化、重点化がすすめられ、特定妊婦、ハイリスク妊産婦への医療の充実や支援が注目されています。

今、私たち助産師は、社会の実状や動きを理解し、活動の場所に関わらず助産師の仲間や関係機関の他職種および支援にかかわる方々と協働し、女性と子ども、家族の持つ力を信じ、寄り添いながら、切れ目のない支援を実践することが求められています。

一社)兵庫県助産師会は引き続き、関係機関や他団体と連携し、専門職能団体としての活動を継続していきたいと考えています。

会員の皆さまには、引き続き当会の活動へのご理解、ご協力くださいますようお願いいたします。



委員会報告

安全対策委員会 ～助産師の更なる質の向上と安全を図るために～

安全対策副委員長 総毛 薫

日頃から安全対策委員会活動へのご理解とご協力をありがとうございます。令和5年度は、目標に「助産師業務における安全意識を高め、助産師の更なる質の向上と安全を図る」をあげ、加須屋理事、鳴坂委員長を中心に8名の委員で活動しています。

安全対策委員会の大きな活動の一つとして、分娩を取り扱う施設の「助産所安全管理評価」があります。2020年からは、コロナ禍のためリモートによる自己評価を実施していましたが、今年度は14施設を訪問し対面で評価させて頂き、評価を受けられる方だけでなく評価者自身も、安全性と快適性を求めたケアについて振り返ることができました。

2023年12月、日本助産師会から新しく「助産師業務安全管理評価表」が作成され、助産師によるケアを提供する施設（助産所[分娩型・保健指導型]、産後ケア施設、訪問看護ステーション等）において、助産実践活動の質の保証と向上を図り信頼につなげるための評価がスタートすることになりました。地域で母子に寄り添いささえる助産師が、「助産師業務における安全意識を高め、助産師の更なる質の向上と安全を図る」ために、「助産師業務安全管理評価表」を多くの施設が活用されることを期待しています。



教育委員会 ～2023年度活動報告～

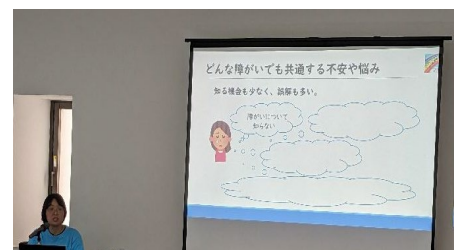
教育委員長 廣谷 薫

今年度のちからアップ研修は3研修のオンライン研修（ライブ+オンデマンド配信）に加え、6研修の対面研修とNCPR（新生児蘇生法）研修、助産所実地研修を開催しました。ここ数年のコロナ禍ではオンライン研修がメインでしたが、今年度は演習やグループワークができる対面研修を実施し、受講生同士の直接の交流や、皆さんの充実した表情やお話に出会う機会となり、研修担当としても対面研修の良さを改めて実感しました。

NCPR（新生児蘇生法）講習会はコロナ禍により開催延期になり、開催のニーズも高かったAコースとSコース講習会を企画、開催できたことはよかったですと思います。新生児蘇生法インストラクターが研修受講施設を訪問するデリバリー研修は、残念ながら応募がなく開催には至りませんでした。次年度に向けて応募方法を工夫して企画いたします。

助産所実地研修は妊娠・分娩・産後ケア、助産所管理等、受講生の目的に応じた研修を企画し、16名の助産師が研修されました。多くの受け入れ助産所の先生方にご協力をいただき、受講生からも喜びの声を多く頂いております。

次年度も皆さまから頂いたご意見を元に最新のトピックスを交えながら助産師のスキルアップに役立つ研修を企画・運営してまいりたいと思います。



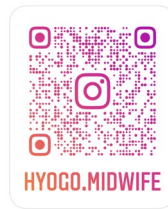
広報委員会 ～より多くの方に兵庫県助産師会の活動を知っていただけるように～

広報委員長 杉原 真理

皆様、兵庫県助産師会の Instagram があることをご存じでしょうか。広報委員会では一般の方に向けてはイベントの告知を、また会員の皆さまに向けては研修会の情報等を日々 Instagram で配信しております。今年度は兵庫県助産師会主催の文化祭「いいお産の日」も開催されましたが、チラシや Instagram を見た方が多数ご参加下さり、大盛況のうちに終えることができました。

また半年に一度、皆さまのお手元に届く「このとり通信」を通して、会員の皆さまに当会の取組みや活動報告をさせていただいております。このように広報活動を通して、より多くの方に当会の活動を知っていただけるよう日々尽力しております。

長らくホームページのリニューアルに向けても検討を重ねて参りましたが、ついに制作会社も決まり、リニューアルに向けて本格的に進み始めております。ホームページ上の情報を整理し、より見やすく、使いやすいものへとバージョンアップしていく予定です。新しいホームページを楽しみにお待ちしております。



災害対策委員会 ～発災時にすぐ対応できる助産師であるために～

災害対策委員長 阿部 久美子

1月1日に発生しました令和6年能登半島地震におきまして、被害に遭われましたすべての方々にお見舞い申し上げます。

今回の震災では兵庫県北部にも津波警報が発令され、当会でも翌1月2日に安否確認を実施しました。例年この時期に行なっております訓練同様の方法で会員の皆様にご連絡しましたところ、回答率は約48%でした。幸いご回答頂いたすべての皆様から「無事です」とお返事をいただき、災害対策委員一同安堵しましたが、残念ながら半数以上の皆様からはお返事を頂けていない状況は昨年と変わらず、早急なシステム改善が望まれる結果となりました。

明日にでも兵庫県近隣で大きな災害が起こるかもしれません。いざという時私たち助産師は、我が身や家族を守るだけでなく、妊産婦さんや赤ちゃん、子育て世帯の方々への支援を続けなければなりません。

今年度当委員会では、「いいお産の日」イベントで一般の方へ向けての防災減災知識の提供、当会Instagramへの災害時使えるライフハック記事の投稿、保健指導などへすぐに応用できる具体的な防災スキルの研修会を開催致しました。

来年度も会員の皆様にはぜひ災害時支援スキルを持っていただき、発災時には当会が皆様への迅速なバックアップ体制が取れますよう整備を続けてまいりますので、どうぞご協力をお願いいたします。



福祉厚生委員会 ～会員の健康と安全のために～

福祉厚生委員長 長井 順子

福祉厚生委員会では、助産師の資質の向上と会員の健康・安全を目的として、より良いケアを提供するために様々な事業を展開しています。

今年度は、自宅分娩に伴う駐車禁止除外指定車票の申請方法が変更となり、それぞれ個人で3年ごとに手続きをすることになりました。福祉厚生委員会では適正な使用のための啓蒙活動や、新規開業の方には個別に相談、アドバイスをいたしました。またレクリエーション保険の申請方法も、昨年度までは事務所のノートに記載していただいていたのですが、QRコードを利用した報告フォームを作成し保険会社に報告しております。さらに会員の自己健康管理について、ガイドラインに基づく感染症のワクチン接種の推奨や、すでに当委員会が作成している抗体価カードの活用を引き続き案内しています。年1回の定期健診と助産師賠償責任保険加入の推奨についてはメーリングリストの活用や配布物により会員に周知をしました。

また、今年度のリフレッシュ企画として3月2日土曜日にメンタルヘルス研修会を開催いたしました。2020年に計画し、コロナで中止となっていました神戸大学の廣田美里先生に4年越しに講演していただき、日々の業務のなか自分自身の傾向を知りセルフケアを含めた対処法を学びました。参加していただいた皆さま、ありがとうございました。

次年度に向けては、アンケート等による会員の声を取り入れたリフレッシュ活動の充実を考えています。引き続き皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



産前産後ケア事業部運営委員会 ～兵庫県内の産前産後ケアの推進に向けて～

産前産後ケア事業部運営委員長 岡崎 智津美

当会が神戸市から委託を受けている神戸市訪問型産後ケア事業の運営は2年目に入り、利用者が増加する中で、虐待、精神疾患など背景が複雑なケースも増えてきました。各区の保健師と連携をとり同行訪問なども行っています。また、登録助産師全員のケアの質を高めるため、隔月でミーティングを開催し、事例検討や流産・死産のグリーフケアの伝達講習も行いました。

これまでは、1冊であった産後ケア手帳を一新して、県内（神戸市以外）で産後ケアを行っている施設間で連携が図れる「ひょうご」版と、神戸市の産後ケア事業（通所型・宿泊型・訪問型）を行っている施設間で連携が図れる「こうべ」版の2冊を作成しました。継続ケアのため、助産師同士の連携のためにぜひご活用ください。



また、他市町の産後ケアを担うことになった会員の方から運営方法について相談をお受けする機会が増え、同時に、他市町の産前産後ケア事業の現状、課題が浮き彫りになりました。来年度は、例えば市町を超えた助産師同士でいくつかの地区全体の産後ケアを担い、市町に掛け合っていくなど、兵庫県下の産後ケア事業の推進を図ってきたいと思っています。



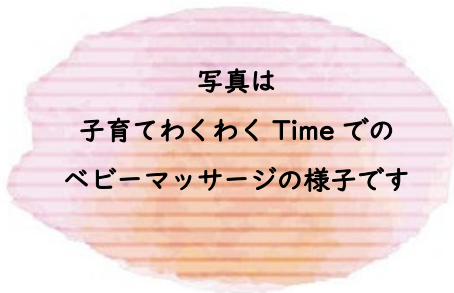
兵庫県子育て・女性健康支援センター運営委員会 ～これからも活かすオンライン事業～

兵庫県子育て・女性健康支援センター運営委員長 鹿谷 真純

子育て・女性健康支援センターでは、対面・オンライン・電話で、妊産婦・育児支援を行いました。コロナ禍や父親の育休制度変更等に影響され、悩みや支援ニーズの変化が感じられます。

この数年で、私達は新しくオンラインという手段を得ました。「子育てわくわく Time」や神戸市委託の「オンライン両親教室」を実施し、低月齢児のママや、安静中の妊婦さん等の参加もあります。オンライン両親教室では、画面上はママ一人でも、近くにパートナーさんがいることがわかる場面もあります。仕事で疲れた身体を休めながらの視聴かもしれないなど、様々な家庭状況を想像しながら、対面では届きにくいところにも助産師の声を届けています。移動がないため、助産師も各地から関わりやすいという面もあります。今後も対面・オンラインそれぞれの良さを活かした事業に取り組みます。

センター事業では病院勤務や助産所等での活動と違ったチャレンジができ、自己研鑽と仲間づくりの場にもなっています。今後も新しい仲間が加わることを待ち望んでいます。



専門部会報告

保健指導部会 ～日本助産師会会員マイページの活用と助産師業務安全管理評価～

保健指導部会長 藤尾 さおり

産後ケアが社会的にも注目され、保健指導型で開業される方も増加傾向にあり、保健指導部会員も昨年度末 120 人から 12 月末現在で 135 人と増加しています。そんな中、医療従事者として、法に基づき母子の安全・安心を守りながら、業務を遂行していく重要性を感じております。2021 年度までは『母乳育児支援評価』でしたが、今年度からは助産所部会と同じ『助産師業務安全管理評価』に変わっております。来年度から本格的な運用となるようですが、まだまだこの情報が行き届いていない状況かと思えます。

日助のホームページには、助産師業務のガイドラインや指針が掲載されており、マイページには、評価表も安全管理指針のひな型もあり、ダウンロードができるようになっております。ぜひご覧いただき、各自安全で安心して業務にあたっていただけるよう整備していただければと思います。

また、評価がしにくい等ご意見がありましたら、会本部へもお届けしたいと考えております。

保健指導部会員の活動は、個人での活動も多いので、会員同士のつながりも大切に連携をとりながら助産師自身も安心して活動していければと思っております。





助産所部会 ～新規開業者が増えました～

助産所部会長 毛利 多恵子

分娩を扱う新規助産所開業5か所！順調に活動しています。

熟練助産師たちが 病院での活動、院内助産での活動、定年を前にと地域でお産を扱う助産所を開業されました。伊丹市にうおーお助産院、神戸市に國本助産院となぎ・和助産院、姫路市にウアノア助産院、淡路島にさくら助産院が生まれました。兵庫県下の分娩型助産所は、15か所となりました。分娩予約や産後ケアの予約も入り、みなさん忙しく活動しています。助産所や自宅での出産率は低くなるかもしれませんが、少なくともそのニーズ応える場を守っていかねばと思います。新しく開業する助産師が増えることは頼もしい限りです。助産所部会では2か月に一度 ZOOM による所長会議をしています。毎回10名程度の参加者がいます。各助産所の問題、新しい通知の共有、助産所カフェの企画などしています。近々または将来開業を考えている会員さん向けに毎年助産所カフェを開催したいと思います。



勤務助産師部会 ～助産師仲間との助産ケアの探求～

勤務部会長 寺嶋 智穂

今年度は、講師に毛利助産所所長の毛利多恵子先生と、4名の演習サポーターをお迎えして、「アクティブバース ～出産期ケアの再考 自由な姿勢で産むことをどう支えるかの演習～」というテーマで、コロナ禍後初の対面研修会を開催しました。ソーシャルディスタンスを考慮しつつも、ファントムやリアルパンツを用いて、受講生参加型の演習をしました。受講生同士が生き生きと交流し、はつらつとした笑顔は、コロナ禍の3年間では見られなかった光景でした。受講生からは「楽しかった」「(臨床で)側臥位分娩(介助)をしたい」「継続して学びたい」という感想がありました。また、令和3年から始めた助産師同士のオンライン交流会『わいわいカフェ』では、「産後ケア」をテーマに3回の交流会を開催しました。次年度は、「地域との連携を図ることができる」を目的に、テーマを決めて開催する予定にしています。助産師会の活動を通して、助産師の豊かな人間力とパワフルさを体感しています。母子のために今、何が出来るのかを助産師仲間と共に探求し、実践に努めていきたいと思っています。

令和5年度 わいわいカフェ

令和5年4月9日(日)19:00~20:00
兵庫県助産師会
勤務助産師部会・保健指導部会合同企画
テーマ「産後ケアにおける意見交換」



令和5年5月21日(土)総会
自己紹介と意見交換
令和4年度の事業報告と令和5年度の事業計画(案)

令和5年8月27日(日)19:00~20:00
テーマ「My助産師による産前産後の継続ケア」

令和6年2月17日(日)16:00~17:00
テーマ「病院での産後ケアについて」

令和6年度もよろしくお願ひします。

研修会「アクティブバース ～出産期ケアの再考 自由な姿勢で産むことを どう支えるかの演習～」

令和5年10月29日の
研修会の様子



講義



演習

いいお産の日 in 兵庫 報告

文化祭企画担当 谷川 裕子

今年は、3年ぶりに11月3日の「いいお産の日」を開催できました。「つながろう！あなたのそばに助産師はいます」をテーマに、災害対策委員会、産前産後ケア事業部、子育て・女性健康支援センターが中心となり、親子で楽しめる企画を急ピッチで進めました。

当日は、一般の方32組70名(大人55名+子ども15名)の参加があり、広報委員会による魅力的なInstagramでの情報発信と、会場入り口での元気な当日参加者への呼び込みにより大盛況となりました。企画や受付などには助産師25名の協力があり、参加者1組に1名の助産師が付き添い、それぞれの体験や工作の説明、日頃気になっていることの相談を受けるなど、会場はとても賑やかで笑顔があふれていました。参加者からは、「さらしておんぶは思っていたより軽く感じて簡単で自宅でもしてみたいと思いました」、「セミナーのように時間制限がなく赤ちゃんの着替え、抱っこなどじっくり教えていただきよかった」と好評でした。楽しい時間はあっという間に終わり、事務所に戻ってからもしばらくは参加した助産師たちの高揚感が続いていました。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。仲間が力を合わせて1つの企画を成し遂げる経験はやっぱりいいものですね。次年度はどんな企画になるか、今から得意分野の技を磨いておきましょう。また来年！



※写真は全て掲載・公開の許可を得ています



